

精神科神経科

■ スタッフ

科長 岡田 元宏
副科長 城山 隆

医師	常勤	9名
	併任	1名
	非常勤	2名
看護師		13名
精神保健福祉士		1名
公認心理師		1名

■ 特色・診療対象疾患

精神科神経科では、うつ病、双極性感情障害、統合失調症、てんかん、適応障害、パニック障害、社交不安障害、強迫性障害、摂食障害、認知症などの一般的な精神疾患に加えて、児童思春期の心の問題や、身体疾患に伴う精神症状、睡眠障害を対象とした診療・治療を行っています。

特定機能病院の入院病床を持つ精神科として、精神疾患の治療と同時に身体疾患の治療が必要な患者様の入院治療も受け入れています。

当科の入院病棟は、閉鎖病棟ではありませんが、屋上庭園を持ち、開放的な空間となっています

1. 当科の特色

1) コンサルテーション・リエゾン

身体科からのコンサルトに基づき精神科医が各科病棟へ往診し、主治医や受け持ち看護師など病棟スタッフと連携して、過半数以上を占める“せん妄”をはじめとして、不眠、不安、抑うつ状態等の治療にあたっています。他科からの精神医療への需要は多く、コンサルテーション・リエゾンには力を入れています。

2) 緩和医療へのかかわり

三重県がん診療連携拠点病院として、緩和ケアチームを設置しており、緩和ケアチームと連携して患者さんの生活の質を少しでも改善できるようにお手伝いしています。身体的な苦痛だけでなく、精神的な苦痛に対する心のケアを含めた全人的な緩和を志しています。

3) 移植医療へのかかわり

臓器提供の自発的意思を確認（倫理的妥当性評価）すると同時に、移植医、移植コーディネーター、臨床心理士と連携し、術後の長期 QOL 向上も視野に入れたカンファレンスにより、移植医療をサポートしています。

4) デイケア

「創作（コラージュ、陶芸など）」「買い物」「料理」「園芸」「当事者研究」「SST」のプログラムを行なっています。当事者研究については力を入れており、院内での当事者研究発表会のほか、「当事者研究全国交流集会」や「当事者研究の現象学」への参加など、他団体との交流も行っています。

5) 修正型電気刺激療法（mECT）

パルス波治療器を導入し、麻酔科と連携をとり、治療の安全性向上に努めています。

2. 主な診療対象疾患

1) うつ病、双極性感情障害、統合失調症

難治性うつ病、カタトニア（緊張病）を含む気分障害、統合失調症に関して、常に最新の知見に基づいた薬物療法をおこなっており、専門の身体診療科と連携したきめ細かい身体管理によって ADL の改善を得ています。

2) てんかん

二次診療施設として、成人てんかんの診断と初期治療を行っています。また、最近増加している高齢者てんかん、小児科からのキャリアオーバー、そして、発作関連性精神障害（うつ状態など）に対する薬物療法も行っています。

3) 老年期の精神障害

記憶障害だけではなく、うつ状態や様々な精神症状（行動障害など）を併発している方々の薬物療法を行います。

4) 睡眠障害

睡眠時無呼吸症候群だけでなく、ナルコレプシー、レストレスレッグス症候群、REM 睡眠行動障害、睡眠覚醒リズム障害など、幅広く睡眠障害の診療にあたっています。

5) 摂食障害

総合病院の精神科として、身体管理が必要な摂食障害患者を受け入れています。

6) 子どもの心の問題や発達障害など

不登校や子どもの不安障害、抑うつ状態、緘黙などの情緒的な問題のほか、自閉スペクトラム症、注意欠如/多動症などの発達の問題についても、丁寧に診療にあたっています。

7) 悪性症候群

悪性症候群は、向精神薬による重篤な副作用であり、早期に適切な対応を行うことが重要と考えています。悪性症候群の危険因子に留意し、自律神経失調症状や血液検査等における変化を早期に捉え、悪性症候群に関する予防的対処を提案し、実践しています。

■ 活動実績

1. 治療実績

一般の精神科外来、専門外来も開設しています。

平成 30 年度から令和 2 年度の、当科への外来受診者数、および入院患者数の推移を示します。

外来患者	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
外来延患者数 (内初診)	17,045 (219)	17,895 (261)	17,265 (229)
コンサルテーション リエゾン	1,419	750	839
ショートケア	865	1132	795

入院患者	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
入院延患者数	7,189	7,799	4,707
新入院患者数	141	131	106
1 日平均患者数	19.7	21.4	12.9

2. 専門外来

1) てんかん外来

成人てんかんとてんかん発作に伴う精神症状の初期診断と治療（薬物療法）の導入を行います。

2) 睡眠外来

県内唯一の日本睡眠学会認定施設であり、診察のうえ、後日に終夜 PSG 検査および睡眠潜時反復検査等の入院精査を行い、治療につなげています。

3) 児童思春期外来

主に小学生、中学生の心の問題に対応しております。不登校や情緒の問題のほか、発達相談も受け付けております。就学前の子どもの情緒や発達の相談も受け付けております。

3. 教育活動の実績

クリニカル・クラークシップ

(医学科 4・5 年生臨床実習)

エレクトィブ (医学科 6 年生臨床実習)

初期臨床研修

後期臨床研修

(専攻医研修プログラム：精神科専門医制度に対応しています)

4. 臨床研究等の実績

1) 遺伝子多型に基づく抗てんかん薬のオーダーメイド投薬の検証に関する前向き臨床研究

治療薬開始前に遺伝子検査を実施し、重傷薬疹を予防する研究を行っています。

2) 精神疾患の白質神経束に関する観察研究

3) 不眠障害患者を対象とした ACT-541568 の長期安全性を検討する、多施設共同、無作為化、オープンラベル試験

■ 当科スタッフの取得専門医・認定医など

精神保健指定医	5 名
日本精神神経学会専門医指導医	5 名
日本精神神経学会専門医	5 名
日本てんかん学会専門医指導医	1 名
日本老年精神医学会専門医指導医	1 名
日本睡眠学会専門医	1 名
総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医指導医	1 名
日本臨床神経生理学会専門医・指導医 (脳波分野)	1 名
日本児童青年精神医学会認定医	1 名

■ 今後の展望

身体合併症治療の必要な患者さんの県内の病院や他の診療科からの紹介、自殺企図後の救急科からのコンサルト、社会的場面でコミュニケーションの苦手な若い人のストレス関連の相談などが増加しており、その背景には家族の高齢化に伴うサポート体制の脆弱化や、患者さんの社会参加の課題もあります。これらに対応できるスキルや多職種連携・地域連携について職員全体でレベルアップするとともに、新たな人材育成に努めます。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/seishin/>